

外國宣傳情報第二號

内閣情報部二〇・一四
(東京都市遞信局採取)

一、西貢佛語放送 (十月八日)
重慶發

英口に達した情報によると重慶政府は日獨伊三國同盟の成立によつて從來の日支事變は一
向して樞軸對英米支三國の抗爭に發展したものと解釋して居り若も歐洲に於て英國が敗
れ亞細亞に於て日本が勝を制する場合には全世界に於ける自由の天地は消滅の外なく米國
も次いでソ聯も樞軸三國のために叩き附けられるのは必然であるからこの消息を知る米
國とソ聯が拱手傍觀することは在り得ないを觀測してゐる。

二、英港英語放送 (十月八日)

ワシントンからの電報によると日獨伊三國同盟成立後米國國務省では外交・軍部・政府首
腦部の出入頗る煩雜を極めつゝある。駐米ロシアン英大使は昨日ハル國務長官と重慶會談
を行つてゐる、會談内容については發表はないが米國は日本に對し經濟壓迫を加へソ聯と
も共同歩調を以つて援蔣強化に積極的に乗り出す方針である。一方ロンドン電はクリツプ
ス駐ソ英大使はモロトフソ聯外相と長時間に亘つて重要會談を行ひ近く英國はビルマ輸送

143

路を再開する旨通告した而してケーシー・豪洲公使もウエルズ國務次官と會談を遂げたが太平洋上に於ける英・米・濠・加の共同動作は勿論ソ聯の要求する處である。

外國宣傳情報第三號

— 重慶支那語放送 (八日) —

(關東通信局臨時情報部報告)

辭 演

「反攻の日近つかん一齊に力を合し準備せよ」(淪陷區の同胞に對する特別放送)

去る九月二十七日獨伊日三國同盟が成立を告げたる旨日本各地の新聞が誇大に外交上の勝利なりと報導して三國同盟に依り中國に大なる打撃を與ふると同時に今後秘魯一國が日本の勢力下に置かるものなりと報じてあるが其の實は勝利に非ずして外交上の一大失敗である日本の代々相傳の政策は中國を滅亡せしめるにあるが故に日本は中國との三十九ヶ月に亘る抗戰に依り國家及び國民の實力、物力等は殆んど消耗され表面上何もかを示さずんと苦心した結果表明したのは兩進政策の高調であるこれは現在占領區内に於て至る處中國軍の包圍態勢下にあつて前進する能はず後退も亦爲し得ざるの窮狀の打開を謀るがために出でたものである佛印の進出と云ひ三國同盟と云ひ日本は之で中國の滅亡を早急に實現せしめ得ると云ふか吾々は盲想に過ぎないと考へる其の幻想は必ず事實として現出することなく早晩破綻するものであると斷定し、日本はこの空宣傳を以て國民を欺し人心の不滿を隠滅せんとするのであつて其時三ヶ月で完全に中國を征服して見せると國